第23回「助成研究吉田秀雄賞」受賞研究が決定

当財団は第23回「助成研究吉田秀雄賞」の受賞研究を決定しました。本賞は、「広告・広報・メディアを中心とするマーケティング及びコミュニケーション」に関する研究助成事業の成果の中から優れた研究を顕彰します。選考委員会(選考委員長 嶋村和恵早稲田大学教授)による厳正な審査の結果、2024年度に当財団が助成した研究成果(常勤研究者の部11件、大学院生の部4件)の中から、下記の方が受賞されました。

贈賞式は、11月7日に当財団で開催しました。

当財団理事長と、柴田典子氏

常勤研究者の部11件の中から、奨励賞を受賞

賞状を受け取る柴田氏

〔常勤研究者の部〕

奨励賞 (副賞10万円)	『ブランドに求める自分らしさと自己概念の明確さの関係～自分らしさの形成・更新とブランドとの関わり方の特徴を捉える実証研究～』	**柴田 典子** 横浜市立大学国際マネジメント研究科/国際商学部教授

〔大学院生の部〕該当なし

*常勤研究者の部の吉田秀雄賞／準吉田秀雄賞は該当なし。大学院生の部の吉田秀雄賞／準吉田秀雄賞／奨励賞は該当なし

選考委員長講評

早稲田大学商学学術院教授　**嶋村 和恵**

今年の助成研究吉田秀雄賞の選考委員会は、財団会議室とオンラインのハイブリッド方式で9月30日に開催されました。今回、財団に提出された常勤研究者の研究報告書は11件(うち2年間の継続研究7件)、大学院生の研究報告書4件でした。本審査に先行して若手研究者による予備審査が行われています。本審査では、予備審査の順位に基づいて常勤研究者の部から4件、大学院生の部から1件を審査対象としました。

本審査の選考委員11名はこの5件の研究を1カ月半ほどかけて熟読し、採点、報告書それぞれへの詳細なコメントを書いた上で委員会に臨んでいます。

大学院生の部では、①先行研究を適切にレビューしているか、②独創性があるか、③実務応用性があるか、④論旨が明確か、⑤適切な実証手続きを取っているか、⑥研究の発展性と理論的貢献があるか、という6つの基準で評価します。今回、本審査に進んだ研究については、ユニークな研究として評価する声もありましたが、残念ながら選考委員全体の支持を得られるところまではいきませんでした。

常勤研究者の部の審査には、①学術的意義、②独創性、③インパクトの3つの基準があります。4件の報告書のうち3件については、それぞれ力作ではあるが吉田賞に該当しないという評価が多数を占めていました。堅実で今後のマーケティング研究への貢献があると評価されたもの、仮想空間での接客支援や顧客満足などに取り組む斬新さが評価されたものもありましたが、先行研究レビューの不足や、広告、マーケティング領域の研究に対する知見の浅さなども指摘され、授賞は見送ることになりました。

奨励賞に選ばれた横浜市立大学・柴田典子先生の「ブランドに求める自分らしさと自己概念の明確さの関係」は、個人研究として2年間継続されたものです。近年にないスケールの大きな研究で、マーケティング研究としてだけでなく社会学研究としても価値があると非常に高く評価した委員もありました。「消費者がライフステージを移行し、自己概念の状態が変化する中で、ブランドが果たす役割とその変化を明らかにする」という研究目的に沿って、時間をかけて丹念な分析が行われている点に評価が集まりました。

一方で、仮説検証型の研究ではなく説得力が弱いという意見や、利用したモデルの妥当性への疑問なども挙げられました。慎重な審議の結果、奨励賞という評価になりましたが、優れた研究であることは確かです。選考委員会では、この研究をめぐって委員からさまざまな話題も提示され、日本文化における自己概念は、欧米社会で想定される自己概念とは違うのではないか、ライフステージで自己概念が変わるのではなく、一人の人が複数の自己概念を持っていることもあるのではないかといった議論も出てきました。今後、さらなる発展の可能性を秘めた研究であるといえましょう。

本年も残念ながら吉田賞、準吉田賞を出すことができませんでしたが、今後の助成研究のさらなる広がりを願っています。

Editor's Note

玉鋼や日本刀を造る技術は、世界的にもまれな存在であり、日本文化としてぜひとも後世に残すべきものだと思う。しかし、その技術を維持し、文化として継承させるには、美術品としての日本刀特有の事情があり、それを困難にしていることが今回の取材を通して構造的に理解できた。文化庁や自治体等からのさらなる支援に期待をしたい。

（緑豆蒜）

美術館やコンサートなどに足を運ぶことが、すっかり日常生活から遠のいてしまい、かわりに動画視聴やSNSコンテンツを通して音楽やアートに触れる時間が増えた。手軽に文化芸術を楽しむ機会が増えたからこそ、実際の作品に触れたときの感動やその場の雰囲気はますます印象深くなり、かけがえのない至福の時をもたらしてくれるようになった。

（葡萄）

厳選クラシックちゃんねる・nacoさんの配信を楽しみにする一人です。作曲家には悲劇的な人生を送った人が少なくありません。落ち着いた語り口の中にも、作曲家の人生の禍福に応じてnacoさんの表情は控えめに変わります。nacoさんの表情が華やぐと幸福の訪れに安堵し、曇ると不幸の予兆にうろたえる。すっかり転がされています。

（ひろた）

AD STUDIES　2025年12月25日号　通巻94号
ISSN　2759-565X
公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団
〒104-0061
東京都中央区銀座5-15-8　時事通信ビル11階
TEL：03-6264-1208　FAX：03-6264-1228
URL：https://www.yhmf.jp

発行人　牧口征弘
編集長　小林球一
編集部　岩本紀子、沓掛涼香
編集協力　プレジデント社
表紙デザイン　八木義博、藤木倫史郎、岩崎真也（電通）＋北中 陽、山本光流（J.C.SPARK）
撮影　永倉航介

本文デザイン　南 剛（中曽根デザイン）
校正　株式会社ヴェリタ
印刷・製本　大日本印刷株式会社

©公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団
掲載記事・写真の無断転載を禁じます。